

UCAS 出張報告 (2019)

2019 年 6 月 17 日から 21 日まで 5 日間の集中講義を行ってきました。サマースクールというより正規の集中講義という扱いのようで、講義室の前に張り出された、その部屋の時間割には他の講義と一っしょに書き込まれていました。午前か午後か選べたので、午後の 4 限分 (1 限は 50 分) とし、講義室は宿舎のある西キャンパスではなく、幹線道路を地下道で渡った東キャンパスの講義棟の一室が割り当てられました。コース名 : **Physics of Seismic Ground Motion** でシラバスをお送りしたところ、時間割に書かれた講義名は「地面震動物理学」になっていました。受講者は 10 名、専攻を聞いたところ **Civil Engineering, Earthquake Engineering, Natural Hazards, Information Technology, Geodesy** とのことでした。概してまじめで優秀のように見えました。居眠りするものはひとりもなく、その日の講義の最後には拍手をしてくれます。多くの大学院生は各地の科学院の機関から来ていて、1 年目をこのキャンパスで学んで、その後、機関に戻るなどして勉学を続けるとのことでした。寮生活で夜まで講義があるようでした。

生活面は去年、木下さんが書かれた通りですが、キャンパス外は何もありませんので、食事は西にふたつ、東にひとつある食堂のどれかで取ります。北京や河北省の中華料理のみのようですが、いろいろな種類があって 1 週間いても飽きることはなかったです。お勧めは西の宿舎に近い方の 2 階です。売店は西の遠い方の隣にあります。最近の中国はどこもそうですが、キャッシュレスがものすごく進んでいます。キャンパス内は現金がまったく使えず、到着時に渡された 500 元入りの IC カードですべて支払いました。講義に関するものだけでなく、こうした生活面や空港への送り迎えなども TA の Yuan (原) 君が、同じ宿舎に泊まって面倒をみてくれました。彼は、元瀬野研の Wei 教授の博士課程大学院生で、普段は教授とともに北京市中心部のキャンパスにいるようです。